

令和7年3月31日

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目
5-12上杉分庁舎12階
管理機関名 仙台市教育委員会
代表者名 教育長 天野 元

令和6年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	せんだいし
管理機関名	仙台市
代表者職名	市長
代表者職名	郡 和子

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	いっぽんざいだんほうじん みやぎけんじょうほうさーびすさんぎょうきょうかい
管理機関名	一般財団法人 宮城県情報サービス産業協会
代表者職名	会長
代表者氏名	阿部 嘉男

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	せんだいしきょういくいいんかい
管理機関名	仙台市教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	天野 元

3 指定校名

学校名 仙台市立仙台工業高等学校
学校長名 春日川 孝

4 事業名

「働きたい街 SENDAI」を目指して
～「地学地就」を目的とした情報科と（仮称）情報専攻科の創設と「産学官」連携
によるデジタル技術を活用できるエンジニアの育成～

5 事業概要

本事業を活用し、次の3点を目的として、IT化が進む地元企業への就職に直結する効果的な指導体制の構築と教育課程の編成について、地元企業等と連携しながら実践的に検討・整備を進める。

本事業において育成を目指す生徒像は、単にデジタル機器の活用には長けた人材ではなく、「基本的なデジタル技術や情報セキュリティに関する知識と能力を身につけ」、「企業が導入するIT技術について実習やインターンシップを通じて学び」、「業種の融合や新たな事業展開の可能性を広げる基盤としてITを活用できる」資質・能力を備えた人材とする。これを実現するため、CEOの采配や産業実務家教員による実践的な教育の役割が極めて重要となる。

（1）既存学科（建築科、機械科、電気科、土木科）における、実務に直結したIT活用能力と柔軟な対応力の育成

- ・連携企業から産業実務家教員を招き、授業・実習を担当していただくとともに、就労や課題研究におけるメンタリング、デュアルシステム等の協力をいただくことで、現在、企業が求める資質・能力を備えた高卒者を輩出する。

（2）（1）を踏まえた既存学科の改編および情報科の新設に向けた教育課程の編成

- ・情報科の設置および（仮称）情報専攻科など上位の学びへつなぐ連携の可能性を検討する。これにより、IT技術がもたらす多領域を融合する可能性を活用できる基礎力と発想力を育成し、地域就職（「地学地就」）につなげる。

- ・特にBIMの活用を情報技術科目の一環として位置付け、他のデジタルツールの運用とともに実施する。産業界から建築現場の施工技術者育成の要請を受けているため、社会人として必須のデジタルリテラシーを獲得し、将来的には地域企業のイノベーションに貢献できる人材の育成を目指す。これにより、地域の学校が地域の「人材育成エコシステム」の一翼を担うことを目標とする。

（3）「産官学」連携によるデジタル技術活用人材の育成と他校への展開

- ・指定校において、マイスター・ハイスクールCEOが既存学科担当と情報共有を行い、各科が関連業種におけるAIやロボット等の最先端技術を導入している地域企業と連携しながら、産業実務家教員の協力を得て、質の高い授業や実習を実施する。これにより、工業界の就労に直結したIT技術活用能力を持つ人材の育成を図る。

- ・5年後、10年後の社会変革を見据え、本事業の成果を仙台市立高等学校各校の実情に応じて教育課程に反映することも視野に入れる。

- ・例えば、商業高校においては、卒業生の多くが事務職を中心に小売業や金融業に従事することから、情報セキュリティの管理やネットワーク設計・構築を含むデジタル機器活用能力および会計業務関連のアプリケーション活用能力を重視する。

現在、商業取引は対面や紙媒体から電子化へと移行しており、商業高校においても大学や企業と連携し、商取引の現状を学ぶ機会を設ける。これにより、新商品の開発、関

連企業との業務提携，マーケティング市場の開拓，企業情報の発信等に柔軟に IT を活用できる能力を育成する。

・また，大学進学者の多くも卒業後は地元企業へ就職することから，商業高校における IT 活用能力の育成は，工業高校と同様に持続可能な「地学地就」に貢献し，本市の施策である「働きたいまちづくり」に寄与する。

6 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

・学校設定教科・科目	開設している	・	開設していない
・教育課程の特例の活用	活用している	・	活用していない

7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
有本 昌弘	東北大学大学院教育学研究科・教授
松田 勝敬	東北工業大学工学部情報通信工学科・教授
深松 努	仙台建設業協会・会長（株式会社深松組・代表取締役社長）
前澤 博	仙台電気工事事業協同組合・理事長（太平電気株式会社・取締役会長）
阿部 嘉男	宮城県情報サービス産業協会・会長（株式会社 SRA 東北・代表取締役社長）
高橋 淳市	宮城県測量設計業協会仙台支部長（株式会社大江設計・代表取締役）
木村 賢治朗	仙台市経済局・局長
天野 元	仙台市教育局・教育長
春日川 孝	仙台市立仙台工業高等学校・校長

8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
伊藤 正則	宮城県情報サービス産業協会・理事・CEO （株式会社エスクルー・代表取締役）
大森 清視	株式会社アルファビジョン・顧問
樋口 祐紀	産業実務家教員 （株式会社ナナイロ）
菅野 大樹	産業実務家教員 （株式会社力道電設 代表取締役）
櫻井 洋実	産業実務家教員 （株式会社コー・ワークス）
笠原 亨	仙台建設業協会・総務兼土木委員長 （伸和興業株式会社・代表取締役）
八島 和彦	宮城県産業人材課・ 「地学地就」統括コーディネーター
大庭 恵弥	仙台市経済局イノベーション推進部産業振興課・課長
大沼 覚	仙台工業高等学校・教頭
小室 孝博	仙台工業高等学校・主幹教諭 機械科
高橋 茂寿	仙台工業高等学校・教諭 機械システム科（定時制）
東海 隼人	仙台工業高等学校・教諭 建築科
佐々木 康	仙台工業高等学校・教諭 電気科

櫻井 慎	仙台工業高等学校・教諭 土木科
西城 光洋	教育局学校教育課高校教育課・課長
齋藤 一豊	教育局学校教育課高校教育課・指導主事

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①MHs 運営委員会		●									●	
②MHs 事業推進委員会	●			●			●			●		
③成果報告会										●		
④指定校訪問	●	●		●			●			●	●	

(2) 実績の説明

① 5月14日（火）第1回運営委員会

＊運営委員委嘱・任命

＊令和6年度事業説明ならびに策定，運営委員からの指導助言

2月12日（水）第2回運営委員会

＊令和6年度事業成果報告ならびに成果発表会報告

＊令和6年度事業実施報告，令和6年度事業実施計画案

＊運営委員からの指導助言

② 4月23日（火）第1回推進委員会

＊推進委員委嘱・任命

＊令和6年度事業説明ならびに策定，推進委員からの指導助言

7月9日（火）第2回推進委員会

＊令和6年度事業進捗状況の説明，推進委員からの指導助言

10月8日（火）第3回推進委員会

＊令和6年度事業進捗状況の説明，推進委員からの指導助言

1月22日（水）第4回推進委員会

＊令和6年度事業成果報告，推進委員からの指導助言

③ 1月31日（金）事業成果発表会

＊CEO，校長，産業実務家教員，各科担当教員，指導主事出席

④ 4月23日（火）第1回推進委員会出席

5月14日（火）第1回運営委員会出席

7月9日（火）第2回推進委員会出席

10月8日（火）第3回推進委員会出席

1月22日（水）第4回推進委員会出席

2月12日（水）第2回運営委員会出席

10 事業の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①校内委員会等	●	●		●	●		●	●	●	●	●	
②各学科事業		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③企業・先端技術見学							●	●				
④社会貢献事業								●				
⑤メンタリング事業											●	●

(2) 実績の説明

- ① 4月 4日（木）伴走者との打ち合わせ（校長）
 4月 5日（金）校内マイスター・ハイスクール担当者会議
 4月23日（火）第1回推進委員会（CEO・校長・教頭・主幹教諭・担当教諭）
 5月14日（火）第1回運営委員会（校長・教頭）
 7月 9日（火）第2回推進委員会（CEO・校長・教頭・主幹教諭・担当教諭）
 7月18日（木）新学科設置に係る校内担当者会議
 7月29日（月）新学科設置に係る校内担当者会議
 8月29日（木）新学科設置に係る校内担当者会議
 10月 2日（水）校内マイスター・ハイスクール担当者会議
 10月 8日（火）第3回推進委員会（CEO・校長・教頭・主幹教諭・担当教諭）
 11月 8日（金）新学科設置に係る校内担当者会議
 12月 2日（月）伴走者との打ち合わせ（CEO・校長・主幹教諭）
 12月 3日（火）新学科設置に係る校内担当者会議
 1月22日（水）第4回推進委員会（CEO・校長・教頭・主幹教諭・担当教諭）
 2月12日（水）第2回運営委員会（校長・教頭）
 2月14日（金）伴走者との打ち合わせ（CEO・校長・主幹教諭）

②③④

【建築科】

プログラム名	コンペ支援レクチャー【継続】	
目標	【情報を活用する能力】 【他者と協働する能力】 ①建築設計コンペティションを行う際の視点を身に付ける ②建築設計コンペティションを行う際の表現方法を身に付ける	
取組内容	実施月	令和6年 5/14, 5/21, 5/28, 6/6, 6/25, 7/2, 7/9, 7/16, 7/30, 8/22, 8/27
	対象	建築科3年
	科目	課題研究
	講師	㈱関・空間設計 計画アドバイザー 杉山 丞 氏
	内容	①設計案に対する指導 ②模擬プレゼンテーションの講評

プログラム名	建築関係現場見学（２年）【継続】	
目標	【情報を活用する能力】 ①住宅の在来構法，金物工法について学ぶ ②住宅の安全・安心，快適など体験的に学ぶ ③世界の最先端の技術とそれを支える建築物について学ぶ	
取組内容	実施月	令和６年１１月６日（水）
	対象	建築科２年
	科目	建築実習
	講師	スモリ工業株式会社・取締役部長・杉田 光政 氏 鹿島建設・工事事務所工事課長代理・太田 修平 氏
	内容	①スモリの家 おうちづくりの学校 ②NanoTerasu（ナノテラス）

プログラム名	建築関係現場見学（１年）【継続】	
目標	【情報を活用する能力】 ①丸太から規格材に至るまで，木材の製材について学ぶ ②木材料の最新鋭機械によるプレカット加工について学ぶ ③最新の窓サッシ製品や建築の熱環境について学ぶ	
取組内容	実施月	令和６年１１月７日(木)
	対象	建築科１年
	科目	工業技術基礎
	講師	(株)山大・生産管理課・青木 健太 氏 YKK AP(株) P-STAGE 仙台・総務人事課・松浦 由紀子 氏
	内容	①(株)山大 製材（ウッド・ミル）工場見学 ②(株)山大 プレカット工場見学 ③YKK AP(株) 講習と業者向けショールーム見学

プログラム名	BIM モデリング技術【継続】	
目標	【プログラミングを活用する能力】 ①BIM(Revit)を使って設計案の検討をできるようにする ②BIM におけるマス機能を使えるようになる ③BIM を使ってプレゼンテーションボードを作れるようになる	
取組内容	実施月	令和６年１２月６日，１２月１３日(金)
	対象	建築科２年
	科目	建築実習
	講師	日本工学院専門学校・主任・瀧川 慧 氏
	内容	①BIM(Revit)を使って実際の敷地で複数の設計案を検討する ②BIM を使ってマス（建築ヴォリューム）の検討を行う ③BIM を使ってプレゼンテーションボードを作る

プログラム名	制御回路学習【継続】	
目標	【プログラミンの仕組みを理解し活用する能力】 ① スマートホーム等に活用されている IoT の仕組みを学ぶ ② プログラムの基礎知識を学び、IoT における環境情報の取得と制御について学ぶ	
取組内容	実施月	令和7年1月9日・16日・23日(木)
	対象	建築科1年
	科目	工業情報数理
	講師	産業実務家教員 (株) CO-WORKS 櫻井 洋実 氏
	内容	① ②Chrome book と Tiibo-Pi(Node-RED)を利用してプログラミングを行い、照度・温度の取得、LED 素子・ブザーの ON/OFF 制御について学ぶ

プログラム名	現場における BIM の実態【新規】	
目標	【BIM の専門的な知識】 ① BIM とは何かを学ぶ ② 実際の現場ではどのように BIM を導入しているのかを学ぶ ③ これからの現場がどのように進化するのかを学ぶ	
取組内容	実施月	令和7年3月14日(金)
	対象	建築科2年，建築科3年
	科目	建築実習，建築施工
	講師	建設会社(清水建設)
	内容	① BIM を活用している現場について説明を受ける ② 講師に現場動画を提供してもらい、それを元に BIM 導入以前と現在そしてこれかどのように進化するのかを学ぶ

【機械科】

プログラム名	プレゼンテーションを学ぶⅡ【新規】	
目標	【情報を活用する能力】 【他者と協働する能力】 ①自分の考えを整理し、相手にわかりやすく伝える力をはぐくむ ②「インターンシップでお世話になった企業の方々に」「夏季休業中に取り組んだインターンシップの内容を」「実施成果という形で報告することを目的とし」定められた時間内に、効率よく伝えることを考えながら学ぶ ③1年生で学んだソフトの使い方や効果的な表現法の応用を発揮する	
取組内容	実施月	令和6年9月3日～11月13日
	対象	機械科2，3年
	科目	課外活動
	講師	(株)ナナイロ・樋口 祐紀 氏
	内容	①プレゼンテーションの技術について学ぶ ②実施した企業ごとにプレゼンテーションを作成する ③企業の方を招いて、グループごとに報告を行う

プログラム名	先端技術見学【継続】	
目標	【情報をまとめる能力】 【キャリアを高める能力】 ①先端技術の見学を通して、今後の進路についての考えを深め、進路選択の一助とする ②得られた学びの情報をまとめ、他者に表現する	
取組内容	実施月	令和6年10月8日（火）
	対象	機械科2年
	科目	機械実習
	講師	ヤマザキマザック(株)・総務部・木下 真由子 氏 (株)ジャムコ・航空整備部次長・乾 茂雄 氏
	内容	①企業理念・取組についての説明 ②現場見学

プログラム名	3DCAD 講習会【継続】	
目標	【ものづくりにおけるソフトウェアを活用する能力】 ①3DCAD（ソリッドワークス）を習得し、3Dプリンターやマシンングセンタを活用したものづくりを目指す	
取組内容	実施月	令和6年12月13日～令和7年1月24日
	対象	機械科1・2年
	科目	課外活動
	講師	宮城県産業技術総合センター 柴田 浩人 氏
	内容	①ソリッドワークスの基本 ②デザインモデリング ③組合せ（アセンブリ）

プログラム名	プレゼンテーションを学ぶⅠ【継続】	
目標	【情報を活用する能力】 【他者と協働する能力】 ①自分の考えを整理し、相手にわかりやすく伝える力をはぐくむ ②「誰に」「何を」「どんな目的で」伝えたいのかを考えながら学ぶ ③ソフトの使い方と共に効果的な表現法について学ぶ	
取組内容	実施月	令和7年1/20, 21, 22, 24, 27, 28
	対象	機械科1年
	科目	工業情報数理
	講師	(株)ナナイロ・樋口祐紀氏
	内容	①プレゼンテーションの技術について学ぶ ②グループごとに与えられたテーマについてプレゼンテーションを作成する ③グループごとに発表を行い、相互評価を行う

プログラム名	EV カートの研究【新規】	
目標	【他者と協働する能力】 【プログラミングや機械加工技術を活用する能力】 ①グランド整備に用いる自動車の自動運転化 ②必要な調査研究を通じ、他者との協働を学ぶ ③3年間の学習内容を応用する	
取組内容	実施月	令和6年7月19日～令和7年1月24日
	対象	機械科3年
	科目	課題研究
	講師	小野塚精機(株)柳原 健也 氏, (有)エスシステムコントロール鈴木 潤一 氏
	内容	①EV カートフレーム設計・製作 ②モーター制御 ③自走プログラミング設計・製作

【電気科】

プログラム名	電気工事实習【新規】	
目標	【情報を活用する能力】 ①電気工事の基本的な考え方および回路図や結線図，作業方法を学習する ②実際の工事に準じた天井や壁面への施工方法，工具の使用方法など実践的な内容を学ぶ ③実際に電気工事業に携わる方の指導を受けることで，進路選択の一助とする	
取組内容	実施月	令和6年6月17日，24日，7月1日，7月8日
	対象	電気科2年
	科目	電気実習
	講師	仙台電気工事業協同組合
	内容	①電気工事計画 ②施工 ③指導・講評

プログラム名	制御回路学習【継続】	
目標	【プログラミングを活用する能力】 ①プログラムの構造や技術・応用を学ぶ ②プログラムの実践的な構成方法を学ぶ ③自動制御技術にふれる	
取組内容	実施月	令和6年8月29日～10月24日
	対象	電気科1年
	科目	工業技術基礎
	講師	(株)CO-WORKS 櫻井 洋実 氏
	内容	①Tibbo-Pi を用いた制御回路学習 ②Node-RED での制御プログラミング ③ ①・②と各種センサを組み合わせた制御実習

プログラム名	プレゼンテーションを学ぶ【新規】	
目標	【情報を活用する能力】 【他者と協働する能力】 ①自分の考えを整理し、相手にわかりやすく伝える力をはぐくむ ②「誰に」「何を」「どんな目的で」伝えたいのかを考えながら学ぶ ③ソフトの使い方と共に効果的な表現法について学ぶ	
取組内容	実施月	令和6年9月3日・4日
	対象	電気科3年
	科目	電気実習
	講師	(株)ナナイロ・樋口 祐紀 氏
	内容	①プレゼンテーションの技術について学ぶ ②グループごとに与えられたテーマについてプレゼンテーションを作成する ③グループごとに発表を行い、相互評価を行う

プログラム名	テクノボランティア【新規】	
目標	【他者と協働する能力】 電気科の生徒が必要な資格を有する産業実務家教員の立ち合い、指導のもと、地域の高齢者が多く居住している団地に出向き、授業で学んだ電気工事の技能・技術を駆使してコンセント、スイッチの点検や交換等は無償で行い、学びとその先にある職業につなげ、また、感謝されることで自己肯定感を高めることを目的とする	
取組内容	実施月	令和6年11月15日(金)
	対象	電気科3年
	科目	課題研究
	講師	仙台電気工事事業協同組合
	内容	地域の高齢者が多い団地に出向き、希望世帯のコンセント、スイッチの点検や交換等を行う

プログラム名	発電所見学【継続】	
目標	【情報を活用する能力】 ①実際の電気関連の仕事に触れる ②発電設備の実際を学ぶ ③進路達成に向け職業観を養う	
取組内容	実施月	令和6年11月21日(月)
	対象	電気科1年
	科目	工業技術基礎
	講師	東北電力(株)新仙台火力発電所
	内容	①発電所見学 ②発送電事業の説明 ③インフラ事業についての説明

プログラム名	LED イルミネーション施設工事【継続】	
目標	【他者と協働する能力】 ①実際の電気工事にふれる ②実際に公開されるイルミネーション施設工事を経て，達成感を得る ③3年間の学習内容を応用する	
取組内容	実施月	令和6年12月19日(木)，令和7年1月10日(金)
	対象	電気科3年
	科目	課題研究
	講師	仙台電気工事業協同組合
	内容	①LED イルミネーションの施設工事 ②LED イルミネーションまでの電気工事

プログラム名	EV カートの研究【新規】	
目標	【他者と協働する能力】 【プログラミングを活用する能力】 ①EV 技術・自動制御技術について学ぶ ②必要な調査研究を通じ，他者との協働を学ぶ ③3年間の学習内容を応用する	
取組内容	実施月	令和6年7月19日～令和7年1月24日
	対象	電気科3年
	科目	課題研究
	講師	(有)エスシステムコントロール鈴木 潤一 氏
	内容	①EV カートを用い，EV 技術の研究を行う ②自動制御技術について学び，EV カートに応用する ③ものづくりの企画・立案・作成を学ぶ

【土木科】

プログラム名	プレゼンテーションを学ぶ【新規】	
目標	【情報を活用する能力】 【他者と協働する能力】 ①自分の考えを整理し，相手にわかりやすく伝える力をはぐくむ ②「誰に」「何を」「どんな目的で」伝えたいのかを考えながら学ぶ ③ソフトの使い方と共に効果的な表現法について学ぶ	
取組内容	実施月	令和6年9月6日・13日
	対象	土木科1年
	科目	工業情報数理
	講師	(株)ナナイロ・樋口 祐紀 氏
	内容	①プレゼンテーションの技術について学ぶ ②グループごとに与えられたテーマについてプレゼンテーションを作成する

プログラム名	土木関係現場見学【継続】	
目標	【情報を活用する能力】 ①学校の授業では学ぶことのできない実際の現場を見学し土木に関する興味関心を育むとともに進路選択の一助とする ②ICT 施工やドローンなど，最新の土木技術を学び，実際に体験し，土木の魅力を感じ取る	
取組内容	実施月	令和6年11月13日(水)
	対象	土木科1年
	科目	工業技術基礎
	講師	熱海建設株式会社・専務取締役・内海 泰彦 氏
	内容	①現場見学 ②ドローン操作体験 ③高所作業試乗体験 ④電動重機の試乗体験 ⑤ICT 基礎講座

プログラム名	積算研修会【継続】	
目標	【プログラミングを活用する能力】 建設業で必要不可欠な積算について，パソコンソフトを利用し体験的に学習することで，積算の理解と基礎的知識を身に付け，建設業への担い手育成の一環と，建設業に進路決定した生徒に対し，就職後の仕事上での一助になることを目指す	
取組内容	実施月	令和7年1月21日(火)
	対象	土木科3年
	科目	課題研究・土木実習
	講師	株式会社エージェンソフト・取締役営業企画室長・片倉 昌充 氏
	内容	① 積算についての講義 ② 積算ソフト「頂」を利用した積算実習

プログラム名	プログラミングの基礎【継続】	
目標	【情報を活用する能力】 ①プログラミングとはどういうものか，実際に世の中でどのように使われているかを理解するとともに，実習を通して実体験し理解を深める	
取組内容	実施月	令和7年2月14日(金)
	対象	土木科1年
	科目	工業情報数理
	講師	(株)ナナイロ・樋口 祐紀 氏
	内容	① プログラミングの基礎についての講話 ② 実習形態で，Excelのマクロを利用し，プログラミングの基礎を系統的に学ぶ

プログラム名	ドローン講習会【新規】	
目標	ドローンを操縦するにあたり必要な知識やドローンの仕組みについて基礎・基本を学びつつ、知識や技術の定着を図り、体験的な学習を通して実践力を育成する	
取組内容	実施月	令和7年2月14日(金)
	対象	土木科1年
	科目	工業情報数理
	講師	株式会社空むすび 木村 祐介 氏・菊池 徹 氏
	内容	ドローンの構造、操縦方法、ドローンの飛行の仕組み（ホバリング・上昇・下降・前後左右・回転）、機首の向きを変えずに四角形に飛行、機首を進行方向に変えながら四角形に飛行

⑤メンタリング研修

2月11日（火）・2月18日（火）・3月17日（月）・3月20日（木）

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

- (1) 既存学科（建築科・機械科・電気科・土木科）における、実務に直結したIT活用能力と、ITを活用した柔軟な対応力の育成について、昨年度以上に企業連携を推進することができ、推進委員会において一定の評価をいただいた。一方で、成果発表会や運営委員会において、CEOを中心に校内体制をより強化すること、また、個別事業を系統立てて整理するよう指摘があった。
- (2) 既存学科の改編と情報科の開設については、校内委員会や有識者会議で、カリキュラムの具体等の検討を経て、令和7年度からスタートすることとなった。現在、施設・設備等の検討を進めている。また、情報専攻科の設置に関しても、今後調査・研究を進めていきたい。
- (3) 「産学官」連携によるデジタル技術を活用できる人材育成の他校への適用については、まだ評価できる段階ではないが、成果発表会等で市立高校間の情報共有を進めていく必要がある。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) 「プログラミング（専門分野のソフト等を含む）を活用する能力」「情報を活用する能力」「他者と協働する能力」を、情報社会に対応した工業人に求められる資質・能力として位置づけ、各事業で系統立てて育成できるよう調査・研究・実践を行いたい。
- (2) 令和6年度に実施した事業に基づき、より発展的な企業との連携型学習プログラムを創出しつつ、「主体的に考え、行動し創造的な問題解決ができる人材育成」を目指し、系統立った事業展開となるよう調査・研究・実践を行いたい。
- (3) 工業各科の特長を生かしつつ融合させる取組として、「学科横断型課題研究」に関する研究を行い、校内で調整を進めたい。
- (4) 就職希望者を対象に、令和5・6年度にメンタリング研修を受講した社会人との面談を実施し、社会人として必要なコミュニケーション力等の向上を図りたい。

- (5) テクノボランティアやプログラミング出前授業、LED イルミネーションを通して、地域社会に貢献しつつ、工業高校に対する理解の裾野を広げていきたい。同様に学校 HP 等の充実を目指し、マイスター・ハイスクール事業の広報も含め、情報発信力を強化したい。
- (6) 仙台市経済局、宮城県情報サービス産業協会、仙台建設業協会、仙台電気工事事業協同組合、宮城県測量設計業協会、その他ものづくり地域企業と連携し、CEO のトータルマネジメントにより、工業各科の事業を検討・展開する上で必要な産業実務家教員を適切に配置したい。また、自走化に向け、事業継続の観点から、予算措置等の検討を進めていきたい。
- (7) 校内推進委員会について、委員の構成や委員会の開催頻度について見直し、進捗状況は職員会議の場で全職員と共有する等、学校体制を改善したい。特に情報科に関しては、カリキュラムの具体をはじめ、設備や広報等を包括的に検討し支援していきたい。また、「情報専攻科」の設置に関しても、別途調査・研究を行いたい。